

化学物質 PFAS（ピーファス）とは何か？ PFASを防ぐには？

PFAS は 1940 年代頃から普及していた化学物質で、水や油をはじき、熱や薬品に強く光を吸収しないなどの特性を持った化学物質で、撥水剤、表面処理剤、乳化剤、消火剤、コーティング等に幅広く用いられています。一方、Forever Chemicals（永久に残る化学物質）と呼ばれ、自然界や体内で分解されにくく、蓄積されやすい性質を持つと言われていています。実際には、永久に残るものではありません。PFAS には、9,000 種類以上ありますが、特に有名なのは、ペルフルオロオクタン酸（PFOA）とペルフルオクタンスルホン酸（PFOS）です。

PFOS は、分解しづらい特性があり、野生生物から高濃度で蓄積されていることから、メーカーの 3 M は、2002 年に製造を中止しました。その後、米国環境保護庁（EPA）は、PFOS 生産大手 8 社と合意が成立し 2015 年までに全廃をしました。

PFOA については、2017 年に世界保健機構（WHO）外部組織の国際がん研究機関（IARC）が「発がん性の恐れがある物質」として分類されて、2019 年、ストックホルム条約第 9 回締約国会議（COP9）にて、第一種特定化学物質（製造・使用、輸出入の禁止）のリストに追加されました。

日本では、2019 年 COP9 の決定を受け、経済産業省・厚生労働省・環境省の合同会合が創設され、2022 年 3 月以降、第一種特定化学物質として認定されました。（注 1）



Consumer Reports 5 月号では、PFAS の特集が掲載されています。焦げ付き防止フライパンや防水ジャケット、テイクアウト容器など、無数の製品に含まれています。これらは、免疫力の低下やさまざまな種類の癌など、いくつかの深刻な健康上の懸念をもたらします。CR のテストでは、人気のチェーン店やスーパーマーケットのハンバーガーラッパー、サラダボウル、ベーキングカップの中には、PFAS を含んでいる可能性が高いものがあることが確認されました。別の CR テストでは、ペットボトル入りの水でも PFAS が含まれている可能性があることが分かりました。（注 2）

PFAS による最大のリスクは、経時的な累積暴露によるものです。したがって、次世代を守るためにも、①撥水性の衣類や汚れに強いカーペットなど、PFAS を含むことがわかっている製品の使用を制限するようにします。②食品がパッケージに入れられている時間が長いほど、PFAS が食品に移行する可能性が高くなります。可能であれば、食品をホイル、シリコン、またはガラスの容器に入れ替えます。電子レンジ用ポップコーンの包装には高レベルの PFAS が含まれるので避けます。③水を飲むときは、フィルター付き浄水器を使用します。④ほごりに含まれる PFAS を避けるために、掃除機、冷暖房のフィルターを適切に交換します。⑤PFAS が含まれる化粧品を避けるなど個人として出来ることをします。（注 3）

（注 1） <https://sustainablejapan.jp/2021/01/17/pfas/58068>

（注 2） [Consumer Reports Magazine May 2022](#)

（注 3） [How to Avoid PFAS - Consumer Reports](#)